プロフェッショナリズム１ａ（医療人入門）

【単位数：1単位，授業13コマ】

1　科目責任者

鈴木孝太　教授（衛生学）

2　教育目標

（１）　ねらい（Ⅰ-1-c，Ⅰ-2-c，Ⅰ-7-c）

① コンピテンスである「プロフェッショナリズム」を修得するために，医師としての価値観・態度・姿勢を身につけるための基本的な生活習慣などを学び，生涯学習・自己啓発・自己管理ができる学生となることを目標とする。

特に，自己の目標を設定し，目標達成のための方法を見いだすとともに実行できることを目指す。

② 時代が求める「医療人」となるために，自分が将来どのような医学生・医師となるかをイメージし，本学で学ぶ意欲を高め，さらに知的運用能力としてのスタディスキル，円滑な人間関係のためのソーシャルスキル，また自己の心身の健康増進，疾病予防など日常生活のためのライフスキルを学修する。

（２）　学修目標

① すぐれた医師になるため，「学びつづける」という強い意欲をもつ。
② 愛知医科大学の歴史・使命・組織を理解し，その一員として誇りを持って適切に行動する。
③ 効果的な学習のために必要な一般原則，基本的な学習術を理解し，身につけて実践する。
④ 医療人に求められる礼儀・礼節，円滑なコミュニケーションの基本を理解し，身につけて実践する。
⑤ 科学的な理解の上に立って自己の生活を律し，健康的な行動を身につけ，不調時に適切な対処を図る。
⑥ 常に学習目標を明確にし，自分の客観的な評価を行うことができる。
⑦ 短期的，長期的に，どのような医学生・医師となりたいかを常にイメージできる。

3　成績の判定・評価

（１）　総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
レポート	○	80%	全ての講義・演習で実施する。
その他	○	20%	演習の準備，またその作業内容などを評価する。

出席：　成績評価の対象となるためには講義の欠席率が3分の1を超えてはならない。
演習については全出席を必要とする。

（２）　合格基準

評価対象の合計が60%以上（又は60点以上）で合格とする。

（３）　再試験・再評価の方法

レポート，その他の合計が60%未満の場合は，再試験を実施する。再試験は原則として実習とし，レポートを課す（60%以上で合格）。

（４）　課題（試験やレポート）へのフィードバック

レポート，演習については，講評を作成し適宜メールで通知する。

4　教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
保健・医療・福祉における 行動科学入門 生活習慣の評価から行動変容の実践まで	鈴木孝太 柿崎真沙子 菊池宏幸 （編・著）	大修館書店	本学のカリキュラムと，医学教育コアカリキュラムに沿ったテキスト。プロフェッショナリズム1a（医療人入門），行動科学1c，行動科学2，健康増進と疾病予防の内容に準拠している。
各講義における配付資料			

5　参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
特に指定しないが，講義で都度，担当教員が示す。			

6　準備学習（予習・復習）

予習は特に必要ないが，講義後，講義内で何を初めて知り，そして何はすでに知っていたことだったのかを，振り返って確認すること（1コマあたり0.5時間程度）。また，それぞれの講義から，医療人となるために，具体的にどのようなことに気をつけて生活するのか説明できるようにすること（1コマあたり0.5時間程度）。

7　授業計画

（１）　講義の方法

講義については，基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが，講義中，一部，小グループ討論や講師との質疑応答などのアクティブ・ラーニングを導入する。

演習では，学生が自発的に進行を行い，討論し，相互評価も行う。

（２）　講義の内容

学生生活で必要なスタディスキル，ソーシャルスキル，ライフスキルについて，さまざまな講師により，具体的な例などを用いて，学生として身につけなければならないスキルと，それらを身につける方法を紹介する。